

暗記カード 9 月 5 日版

再掲載 (6030 版)

問題No.	質問	回答
問 72	生薬の <u>ジャコウ</u> の主な作用は何か	● 強心作用、呼吸中枢刺激作用(呼吸機能を高める)、意識をはっきりさせたりする作用
問 72	生薬の <u>ゴオウ</u> の主な作用は何か	● 強心作用、末梢血管拡張による降圧作用、鎮静作用
問 72	苓桂朮甘湯(りょうけいじゆつかんとう)の①作用、②適応、③留意点について	● ①苓桂朮甘湯は、 <u>強心作用が期待される生薬は含まれず</u> 、利尿作用により水毒(むくみ)を解消する ● ②体力中等度以下で、めまい、ふらつきがあり、ときにのぼせや動悸があるものの、立ちくらみ、めまい、頭痛、耳鳴り、動悸、息切れ、神経症、神経過敏 ● ③ <u>カンゾウを含むので、グリチルリチン酸による偽アルドステロン症を生じやすい。</u>
問 72	生薬 センソの①作用と特徴と、②使用上の留意点について	● ①微量で強い強心作用を示す ● ②1日用量中 <u>センソ 5mg を超えて含有する医薬品は劇薬に</u> 指定されている。一般用医薬品では、1日用量が 5mg 以下

問題No.	質問	回答
問 73	コレステロールの生体での①役割は何か? ②体内のどこで作られているか?	● ①胆汁酸や副腎皮質ホルモンなどの生理活性物質の基本骨格 ● ②肝臓で産生され、代謝されている
問 73	コレステロールは血液中では 2 種類あるが、それぞれどのような役割を担っているのか?	● コレステロールは、血液中ではリポタンパク質となり、高密度の HDL と低密度の LDL の 2 種類で存在している ● HDL の役割は末梢組織から肝臓にコレステロールを運ぶ役割 ● LDL の役割は肝臓から末梢組織にコレステロールを運ぶ役割
問 73	LDL が「悪玉コレステロール」、HDL が「善玉コレステロール」と言われる理由は?	● 血液中の LDL (悪玉) が多く、HDL (善玉) が少ないと、コレステロールの運搬が末梢組織側に偏ってその蓄積を招き、心臓病や肥満、動脈硬化症等の生活習慣病につながる危険性が高くなるから
問 73	脂質異常症と診断される検査値は?	● LDL が 140mg/dL 以上 ● HDL が 40mg/dL 未満 ● 中性脂肪が 150mg/dL 以上 ● 上記のいずれかである状態—— <u>各検査値は把握すること</u>
問 73	高コレステロール改善薬を使用する 2 つの目的は?	● ①血中コレステロール異常の改善 ● ②血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害(手足の冷え、痺(しびれ))の緩和
問 73	3 種類の高コレステロール改善剤の特徴と代表的な成分は何か?	● ①腸管からのコレステロールの吸収抑制作用—— <u>ノイステロール(大豆油不飽和物)</u> ● ②コレステロールをエステル化して、代謝を促進する—— <u>リノール酸、ポリエン ホスファチジル コリン</u> ● ③LDL の排泄を促進し、リポタンパクリパーゼ活性による LDH 産生を高める—— <u>パンテチン</u>

問 73	高コレステロール改善剤の共通の副作用は何か？	● 悪心(吐きけ)、胃部不快感、胸やけ、下痢等の消化器系の副作用が現れることがある。
問 73	過酸化脂質とは何か？	● 血漿中に過剰に存在するコレステロールが脂質となったもので、種々の障害の原因となる
問 73	リボフラビン(ビタミンB2)の①高コレステロール改善の作用は？ ②副作用に関する留意点は？	● ①コレステロールの生合成抑制と排泄・異化促進作用、中性脂肪抑制作用、過酸化脂質分解作用 ● ②摂取によって尿が黄色くなることがあるが、使用中止を要する副作用等の異常ではない
問 73	トコフェロール(ビタミンE)の2つの作用とは？	● ①コレステロールからの過酸化脂質の生成抑制作用 ● ②末梢血管における血行促進作用による血中コレステロール異常に伴う手足の冷え、痺れなどの末梢血行障害の緩和
問 73	高コレステロール改善薬の使用に際しての留意点とは？	● ウエスト周囲径(腹囲)を減少させるなどの痩身(そうしん)効果を目的と使用しないこと ● 1~3ヶ月使用して、検査値に改善がみられない時には、遺伝的又は内分泌的要因も疑われるため、いったん使用を中止して受診勧奨すること

問題No.	質問	回答
問 74	貧血の2つの分類とは？	● ①ビタミン欠乏性貧血 ● ②鉄欠乏性貧血——貧血治療薬として鉄分補充剤がある
問 74	貧血の①主な症状とは？ ②症状を把握する理由は？	● ①疲労、動悸息切れ、血色不良、頭痛、耳鳴り、めまい、微熱、皮膚や粘膜の蒼白(青白くなること)、下半身のむくみ等 ● ②食生活の改善と服用により、2週間後に改善の有無を把握するために、服用者の症状の把握が必要
問 74	鉄分が生体に不可欠である理由とは？	● 赤血球が酸素を運搬できるのはヘモグロビンがあるからであり、そのヘモグロビンを産生するのに鉄分は不可欠である。
問 74	鉄分が不足する3つの背景と具体的な状況とは？	● ①鉄分の供給が不足した場合——(1)食事からの摂取不足、(2)鉄分を吸収する消化管の障害による吸収不足 ● ②鉄分の消失が増加した場合——(1)消化管等の出血による不足、(2)月経血損失の多い女性 ● ③鉄分の必要量が増加した場合——(1)体の成長が著しい年長乳児や幼児、(2)鉄要求量の増加する妊婦・母乳を与える女性 ◆上記の①~③の鉄分欠乏の状況を把握したことによる鉄分補充剤の使用目的と、経過観察の内容が明確になる。
問 74	鉄分補充剤の①使用目的、②主な補充剤は何か？	● ①不足した鉄分を補充することを目的として配合 ● ②フマル酸第一鉄、溶性ピロリン酸第二鉄、可溶性含糖酸化鉄、クエン酸鉄アンモニウム ◆「鉄」が名称にあるものと覚える
問 74	鉄分補充剤の使用時の留意点とは？	● 鉄製剤を服用すると便が黒くなることもある。これは使用の中止を要する副作用等の異常ではない ● 鉄製剤の服用前から便が黒い場合は、消化管内で出血している場合もあり、服用前の便の状況との対比が必要

問 74	鉄分以外の 3 つの金属補充剤と、その主たる役割は何か？	<ul style="list-style-type: none"> ● ① 硫酸銅—— 補充した鉄分を利用してヘモグロビンが産生されるのを助ける目的 ● ② 硫酸コバルト—— 赤血球に必要な不可欠なビタミン B12 の構成成分で、骨髄での造血機能を高める目的 ● ③ 硫酸マンガン—— 糖質・脂質・タンパク質の代謝に働く酵素であり、エネルギー合成を促進する目的
問 74	貧血を改善するための 4 つのビタミン剤と、主な目的は？	<ul style="list-style-type: none"> ● ① ビタミン B6—— ヘモグロビン産生に必要な（塩酸ピリドキシン） ● ② ビタミン B12—— 正常な赤血球の形成に働く（シアノコバラミン） ● ③ 葉酸—— ビタミン B12 と同じ目的 ● ④ ビタミン C—— 消化管内で鉄が吸収されやすい状態に保つこと（アスコルビン酸）
問 74	貧血改善の鉄剤の主な副作用は何か？	<ul style="list-style-type: none"> ● 胃腸に対する障害—— 悪心（吐きけ）、嘔吐、食欲不振、胃部不快感、腹痛、便秘、下痢等 ● 胃の負担を減らすための腸で溶解する腸溶性製品がある
問 74	鉄剤の服用時の留意点は？	<ul style="list-style-type: none"> ● 服用の前後 30 分にタンニン酸を含む飲食物（緑茶、紅茶、コーヒー、ワイン、柿等）を摂取すると、タンニン酸と反応して鉄の吸収が悪くなることがあるので、服用前後はそれらの摂取を控えること ● 特段の基礎疾患等がなく鉄分の欠乏を生じる主な要因は、食事の偏り（鉄分の摂取不足）が考えられ、食生活の改善を同時に図られること ● 貧血の症状がみられる以前から予防的に貧血用薬（鉄剤）を使用することは適当でない。
問 74	鉄剤の服用後の受診勧奨を含めた留意点は？	<ul style="list-style-type: none"> ● 食生活を改善し、かつ鉄剤（貧血用薬）の使用を 2 週間程度続けても症状の改善がみられない場合には、月経過多、消化管出血、痔及び子宮筋腫等、出血性の疾患による慢性的な血液の損失が原因で貧血症状が起きている可能性がある。これらの場合、基礎疾患の治療が優先されるべきであり、一般用医薬品による対処を漫然と継続することは適当でない。

問題 No.	質問	回答
問 58、82、83、98	便秘や軟便、下痢の症状に影響する 3 つの要因とは？	<ul style="list-style-type: none"> ● ① 水分の吸収と調整—— 小腸での水分の吸収、大腸での水分量に調整がなされる ● ② 腸内細菌—— 腸内細菌の活動によって便通や糞便の質に影響を与える ● ③ 病気による自律神経系への影響—— 腸の働きは自律神経系により制御されており、病気等が自律神経系に異常を生じた場合
問 58、82、83、98	便秘の時にしばしば起こる腹痛への適切な対応とは？	<ul style="list-style-type: none"> ● 腹痛が著しい場合や便秘に伴って、吐きけ や嘔吐が現れた場合には、急性腹症（腸管の狭窄、閉塞、腹腔内臓器の炎症等）の可能性があるので、受診勧奨すること
問 58、82、83、98	便秘や軟便、下痢の症状が現れる背景は何か？	<ul style="list-style-type: none"> ● 腸における消化、栄養成分や水分の吸収が正常に行われなかったり、腸管がその内容物を送り出す運動に異常が生じたりすると現れる

問 58、 82、83、98	適切に対応するために、下痢の ①急性の場合、②慢性の場合 とは？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①急性の下痢——体の冷えや消化不良、細菌やウイルス等の消化器感染(食中毒など)、緊張等の精神的なストレスによる ● ②慢性の下痢——腸自体に病変を生じている可能性がある
問 58、 82、83、98	適切に対応するために、便秘の ①急性の場合、②慢性の場合 とは？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①急性の便秘——環境変化等のストレスや医薬品の副作用等 ● ②慢性の便秘——加齢や病気による腸の働きの低下、便意を繰り返し我慢し続けること等による腸管の感受性の低下
問 58、 82、83、98	整腸剤の使用目的は？	● 腸内細菌の数やバランスに影響を与えたり、腸の活動を促したりして、腸の調子や便通を整え(整腸)、腹部膨満感、軟便、便秘に用いられることを目的とする医薬品
問 58、 82、83、98	止瀉薬の使用目的は？	● 腸やその機能に直接働きかけたり、腸管内の環境を整えて腸に対する悪影響を減らしたりすることにより、下痢、食あたり、吐き下し、水あたり、下り腹、軟便等を改善することを目的とする医薬品
問 58、 82、83、98	瀉下薬(下剤)の使用目的は？	● 腸管を直接刺激したり、腸内細菌の働きによって生成した物質が腸管を刺激したり、糞便のかさや水分量を増したりして、便秘症状及び便秘に伴う肌荒れ、頭重、のぼせ、吹き出物、食欲不振、腹部膨満、腸内異常発酵、痔の症状を緩和したり、又は腸内容物を排除したりすることを目的とする医薬品
問 58、 82、83、98	整腸薬で留意する点は何か？	● 下痢・便秘の繰り返し等の場合における整腸については、医薬品においてのみ認められていることに留意
問 58、 82、83、98	整腸剤の生菌として用いられている 主要な 5 つの菌は何か？	● ①ビフィズス菌、②アシドフィルス菌、③ラクトミン、④乳酸菌、⑤酪酸菌
問 58、 82、83、98	整腸剤の主要な 3 つの生薬成分 は何か？	● ①ケツメイシ、②ゲンノショウコ、③アセンヤク
問 58、 82、83、98	トリメプチンマレイン酸塩の①消化 管運動調整作用とは？ ②使用に際して 留意点とは？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①消化管運動調整作用とは、消化管の平滑筋に直接作用して、消化管運動が低下しているときは亢進的に、運動が亢進しているときは抑制的に働く作用 ● ②重篤な副作用の肝機能障害を生じることがあるので、肝臓病の診断を受けた人では、医師や薬剤師に相談する
問 58、 82、83、98	止瀉薬は①どのような作用をするのか？ ②代表する 3 つの薬剤は何か？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①腸粘膜のタンパク質と結合して不溶性の膜を形成し、腸粘膜をひきしめる収斂(しゅうれん)作用により、腸粘膜を保護する ● ②薬剤として、(1)次没食子酸ビスマス、(2)次硝酸ビスマス、(3)タンニン酸アルブミン
問 58、 82、83、98	タンニン酸と同類の成分を含む 3 つの生薬成分とは？	● ①ゴバイシ、②オウバク、③オウレン
問 58、 82、83、98	止瀉薬の使用時の留意点は何か？	● 急性の激しい下痢又は腹痛・腹部膨満・吐きけ等の症状を伴う人では、細菌性の下痢や食中毒のときに使用して腸の運動を鎮めると、かえって状態を悪化させるおそれがあるため、安易な使用を避けること

問 58、 82、83、98	ビスマス成分の4つの使用上の注意とは？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①海外において長期連用した場合に精神神経症状が現れたとの報告があり、1週間以上継続して使用しないこと ● ②循環血液中への移行が高まって精神神経症状を生じるおそれがあり、服用時は飲酒を避けること ● ③胃潰瘍や十二指腸潰瘍の診断を受けた人では、損傷した粘膜からビスマスの吸収が高まるおそれがあるため、使用前にその適否につき、薬剤師等に相談すること ● ④ビスマスは血液-胎盤関門を通過することが知られており、妊婦又は妊娠していると思われる女性では使用を避けること
問 58、 82、83、98	タンニン酸アルブミンの2つの使用上の注意とは？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①重篤な副作用としてショック(アナフィラキシー)を生じることがあるので、留意する ● ②タンニン酸アルブミンに含まれるアルブミンは、牛乳に含まれるタンパク質(カゼイン)から精製された成分であるため、牛乳にアレルギーがある人では使用を避けること
問 58、 82、83、98	止瀉薬であるロペラミド塩酸塩の適応外の3つの下痢等とは？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①食あたりや水あたりによる下痢 ● ②発熱を伴う下痢 ● ③血便のある粘液便が続くような場合
問 58、 82、83、98	止瀉薬であるロペラミド塩酸塩の使用時に8つの注意点とは？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①便秘を避けなければならない肛門疾患がある人では、使用を避ける ● ②使用は短期間にとどめ、2～3日間使用しても症状の改善がみられない場合には、受診勧奨する ● ③15歳未満の小児には適用がないので、使用しない ● ④腸管の運動を低下させる作用を示し、胃腸鎮痛鎮痙薬との併用は避ける ● ⑤効き目が強すぎて便秘が現れることがあり、まれに重篤な副作用としてイレウス様症状を生じる ● ⑥中枢神経系を抑制する作用もあり、副作用としてめまいや眠気が現れることがあるため、乗物又は機械類の運転操作を避けること ● ⑦中枢抑制作用が増強するおそれがあるため、服用時は飲酒しないこと ● ⑧乳汁中に移行することが知られており、母乳を与える女性では使用を避けるか、又は使用期間中の授乳を避ける
問 58、 82、83、98	腸管内の有害物質の吸着剤と使用される8つの薬剤は？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①炭酸カルシウム、②沈降炭酸カルシウム、③乳酸カルシウム、④リン酸水素カルシウム、⑤天然ケイ酸アルミニウム、⑥ヒドロキシナフトエ酸アルミニウム、⑦カオリン、⑧薬用炭
問 58、 82、83、98	小腸刺激瀉下剤のヒマシ油の使用目的は？	<ul style="list-style-type: none"> ● 小腸でリパーゼがヒマシ油を分解し、その結果生じた分解物が、小腸を刺激する瀉下作用を利用して、腸内容物の急速な排除を目的として使用する ● 急激で強い瀉下作用(峻下作用)を示す
問 58、 82、83、98	小腸刺激瀉下剤のヒマシ油の使用を避ける4つの場合とは？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①激しい腹痛又は悪心嘔吐の症状がある人 ● ②妊婦又は妊娠していると思われる女性 ● ③3歳未満の乳幼児 ● ④母乳を与える女性では使用を避けるか、又は使用期間中の授乳を避ける

問 58、 82、83、98	防虫剤や殺鼠剤を誤飲した場合のヒマシ油が禁忌である理由は？	● ナフタレンやリン等の脂溶性の物質による中毒には、ヒマシ油に溶け出して、中毒症状を増悪させるおそれがあるため
問 58、 82、83、98	大腸刺激性瀉下剤の代表的な 9 つとは？	● ①センナ、②センノシド、③ダイオウ、④カサントラノール、⑤ピサコジル、⑥ピコスルファートナトリウム、⑦アロエ、⑧ジュウヤク、⑨ケンゴシ
問 58、 82、83、98	刺激性緩下剤の妊婦等への使用を避ける理由は？	● 腸の急激な動きに刺激されて流産・早産を誘発するおそれがあるため
問 58、 82、83、98	センノシドが小腸ではなく大腸で瀉下作用を示す理由は？	● 胃や小腸で消化されないが、大腸に生息する腸内細菌によって分解され、分解生成物が大腸を刺激して瀉下作用をもたらす
問 58、 82、83、98	大腸刺激性瀉下剤のピサコジルの腸溶性製剤の使用上の留意点は何か？	● 胃内でピサコジルが溶け出すおそれがあるため、服用前後1時間以内は制酸成分を含む胃腸薬の服用や牛乳の摂取を避けること
問 58、 82、83、98	マグネシウムを含む瀉下剤の使用上の留意点は？	● 一般に消化管からの吸収は少ないとされているが、一部は腸で吸収されて尿中に排泄されることがあるため、腎臓病の診断を受けた人では、高マグネシウム血症を生じるおそれがあり、使用する前にその適否につき、医師又は薬剤師に相談すること
問 58、 82、83、98	高マグネシウム血症とは？	● 血液中のマグネシウム濃度が異常に高くなり、脱力感、低血圧、呼吸障害などが現れる。重症の場合には、心停止が起こることもある
問 58、 82、83、98	瀉下剤の硫酸ナトリウムの使用上の留意点は？	● 血液中の電解質のバランスが損なわれ、心臓の負担が増加し、心臓病を悪化させるおそれがあるため、使用する前にその適否につき、医師又は薬剤師に相談すること
問 58、 82、83、98	糞便の「かさ」を増やす等による瀉下剤の代表的な 3 つとは？	● ①カルメロースナトリウム、②カルメロースカルシウム、③プラントゴ・オボタ
問 58、 82、83、98	糞便中の水分量を増やして瀉下作用を示す薬剤は？	● ジオクチル ソジウム スルホ サクシネート(DSS)
問 58、 82、83、98	発生するガスで瀉下作用を示す薬剤は？ その特徴は？	● マルツエキス ● 瀉下薬としては比較的作用が穏やかなため、主に乳幼児の便秘に用いられる。 ● マルツエキスは麦芽糖を60%以上含んでおり水飴状で甘く、乳幼児の発育不良時の栄養補給にも用いられる。
問 58、 82、83、98	相互作用の視点からの止瀉薬、瀉下薬の留意する 3 つの点とは？	● ①医薬品の副作用として便秘や下痢を生じることがあり、止瀉薬や瀉下薬と一緒に医薬品が併用された場合、作用が強くなったり、副作用を生じやすくなったりするおそれがあるので、留意する。 ● ②複数の瀉下薬を併用すると、激しい腹痛を伴う下痢や下痢に伴う脱水症状等を生じるおそれがあるので、瀉下薬を使用している間は、他の瀉下薬の使用を避けること。 ● ③センナの茎を用いた製品は、微量のセンノシドが含まれる食品として流通していて、「医薬品でないから大丈夫」と安易に考えて瀉下薬と同時期に摂取された場合、複数の瀉下薬を併用した場合と同様な健康被害につながるおそれがあるので、留意すること

問 58、 82、83、98	止瀉薬、瀉下薬の使用に関する基本的な考え方は？	<ul style="list-style-type: none"> ● 一般用医薬品の使用としての止瀉薬、瀉下薬はあくまで対症療法であり、下痢や便秘を引き起こした原因の特定やその解消が図られることが、一般用医薬品の適正な使用を確保する上で重要である。
問 58、 82、83、98	医薬品使用中の下痢・便秘への適切な対応方法とは？	<ul style="list-style-type: none"> ● 医薬品の副作用として下痢や便秘が現れることがあり、医薬品の使用中に原因が明確でない下痢や便秘を生じた場合は、安易に止瀉薬や瀉下薬によって症状を抑えようとせず、その医薬品の使用を中止して、医師や薬剤師などの専門家に相談すること
問 58、 82、83、98	過敏性腸症候群の便通障害とは、①どのような状態になるのか？ ②対応方法は？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①過敏性腸症候群の便通障害とは、下痢と便秘が繰り返される状態 ● ②症状が長引く場合は、受診勧奨すること
問 58、 82、83、98	下痢に関する①適切な捉え方は？ ②適切な対応とは？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①下痢は、腸管内の有害な物質を排出するために起こる防御反応でもあり、止瀉薬によって下痢を止めることでかえって症状の悪化を招くことがあることを常に念頭に対応すること ● ②下痢に伴って脱水症状を招きやすいため、水分・電解質の補給に配慮すること
問 58、 82、83、98	下痢に発熱が伴う場合の2つの留意点とは？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①食中毒菌等による腸内感染症の可能性があること ● ②虫垂炎や虚血性大腸炎のような重大な疾患に起因する可能性があること
問 58、 82、83、98	便に血が混じっている場合の留意点とは？	<ul style="list-style-type: none"> ● 赤痢や腸管出血性大腸菌(O157 等)、潰瘍性大腸炎、大腸癌などによる腸管出血の可能性が疾患の可能性あることを念頭に対応する。
問 58、 82、83、98	便秘に関する①適切な捉え方は？ ②適切な対応とは？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①便秘の対応は、便秘になりやすい食生活等の生活習慣の改善を優先して対応すること ● ②瀉下薬の使用は一時的なものにとどめること
問 58、 82、83、98	刺激性瀉下薬の使用上の注意点は？	<ul style="list-style-type: none"> ● 繰り返し使用されると腸管の感受性が低下して効果が弱くなるために常用を避ける必要があることを使用者には常に説明すること ● 慢性の便秘に関しては受診勧奨すること